※　入賞時、作者の同意なしに印刷・配布等することがあります。

＜要旨＞　　「ふくおか教育論文」

主題　学級担任の外国語活動の授業力向上を目指して

副主題　　キャリアステージに応じたコーチングシートの活用を通して

うきは市立御幸小学校
指導教諭　　宮﨑　有沙

こんな手立てによって…

学級担任が外国語活動の授業の課題を見いだし、計画、実践、振り返るための対話の中心にコーチングシートを位置付けた。

こんな成果があった！

キャリアステージの異なる学級担任が、それぞれの自身の課題を解決しながら授業力を高め、外国語活動の授業への自信をもつことができた。

１　考えた

うきは市内の外国語活動専科教員になり、今求められる学級担任の外国語活動の授業力向上を推進するという役割を担った。そこで、外国語活動の指導計画を立てたり、基礎的・基本的な指導技術を用いて授業を展開したりする力を自ら身に付けていこうとする学級担任の姿を目指した。しかし、市内７小学校を全て回るため学級担任とゆっくり話す時間がない、学級担任の実態が違うため一人一人に応じた指導が必要であるという課題があった。そこで、学級担任のキャリアステージを分類し、「承認」「称賛」「提案」を行う対話の中心にコーチングシートを位置付けることで、これらの課題を解決できると考えた。

２　やってみた

コーチングシートを活用するための手立てを「授業力向上の視点をもたせるための授業モデルの提示」、「承認、称賛、提案を強化する外国語活動の作成」、「授業づくりの土台となる教材、教具の提供」から３点から具体化した。コーチングシートの活用によって、実践１では、キャリアステージⅠの学級担任が、一単位時間の授業構想及び授業展開の視点から、授業改善に取り組んだ。実践２では、キャリアステージⅡの学級担任が、ねらいに応じた活動の工夫という授業構想の視点から、授業改善に取り組んだ。実践３では、キャリアステージⅢの学級担任が、単元を通した授業構想の視点から授業改善に取り組んだ。

３　成果があった！

外国語活動の授業観察による評価及び学級担任の自己評価から以下の成果が明らかになった。

・キャリアステージⅠ、Ⅱ、Ⅲの学級担任が、外国語活動の授業づくりの知識、経験を増やし、授業を行うことへの自信をもったことで、キャリアステージⅣに近付いた。

・学級担任が、自身の課題を見いだし、計画、実践、振り返りを繰り返したことで、新たな課題を自ら見いだし、改善しようとする姿が見られるようになった。

＜目次＞

主題　学級担任の外国語活動の授業力向上を目指して

副主題　キャリアステージに応じたコーチングシートの活用を通して

１　主題設定の理由 ………………………………… ３
（１）グローバル化に対応した英語教育改革実施計画から ………… ３
（２）役割遂行上の課題から ………………………… ３

２　主題の意味 ………………………………… ４
（１）学級担任の外国語活動の授業力向上とは ………… ４
（２）キャリアステージに応じたコーチングシートの活用について ………… ４

３　研究の目標 ………………………………… ７

４　研究の仮説 ………………………………… ７

５　研究の構想 ………………………………… ７
（１）授業力向上の視点をもたせるための授業モデルについて ………… ７
（２）「承認」「称賛」「提案」を強化する外国語活動通信の作成 ………… ８
（３）授業づくりの土台となる教材、教具の提供 ………… ９
（４）実践検証の進め方について ………… ９
（５）研究構想図 ………………………………… １０

６　研究の実際 ………………………………… １０
（１）ステージⅠのコーチングの実際 ………… １０
（２）ステージⅡのコーチングの実際 ………… １５
（３）ステージⅢのコーチングの実際 ………… １９

７　成果と課題 ………………………………… ２４
（１）研究の成果 ………………………………… ２４
（２）今後の課題 ………………………………… ２５

＜参考文献＞ ………………………………… ２５

＜本文＞

主題　　学級担任の外国語活動の授業力向上を目指して

副主題　　キャリアステージに応じたコーチングシートの活用を通して

うきは市立御幸小学校
指導教諭　　宮﨑　有沙

１　主題設定の理由

（１）グローバル化に対応した英語教育改革実施計画から

文部科学省は、新たな英語教育の在り方の実現にあたって、小学校中学年の外国語活動の指導における課題解決の方向性を次のように挙げている。

> 小学校中学年からの英語教育（活動型）の開始に伴い、中学年の学級担任も外国語活動の指導を行う必要が生じるため、研修をはじめとした指導体制の大幅な強化が不可欠。

小学校中学年段階では、児童や学級の実態を理解した学級担任が中心となって外国語活動の指導を行うことが求められており、担任一人一人が外国語活動の指導力を向上させなければならない。このような課題を解決するために、文部科学省は次のような施策を掲げている。

・小中学校英語教育推進リーダーの加配・養成研修
・小学校中核教員養成研修、専科教員指導力向上研修
・小学校学級担任英語指導力向上研修（校内研、初任研、免許状更新講習等）

研修を受ける機会が多ければ多いほど、そして、研修し実践することを繰り返すことで、指導力は向上するものと考える。しかし、多忙な学級担任が継続的な指導力向上研修を受ける機会が十分にあるとは言えない。そこで、年間３５時間行う日常の外国語活動の授業を通して、継続的に実践しながら授業力を高めることができないかと考え、本主題を設定した。

（２）役割遂行上の課題から

うきは市内の外国語活動専科教員になり、本年度で２年目を迎えている。毎週、市内の小学校を巡回し、中学年の授業を担任と共に行いながら、担任が自信をもって外国語活動の授業ができるように指導や助言を行うという役割である。しかし、外国語活動の授業力向上を推進していく上で、次のような課題が見られた。

・市内７小学校を全て回るため、学級担任との打合せや授業の振り返りを行ったり、悩みを聞いたり、指導や助言をしたりする時間が十分でないこと
・学級担任の外国語活動の授業経験、英語への得手不得手などが一人一人違うため、一人一人の実態に応じた指導が必要であるが、そのマニュアル等がないこと

以上のような課題から、学級担任の個々がもつ外国語活動の授業づくりの課題に応じて、指導や助言をしていくことが必要だと考え、本副主題を設定した。

２　主題の意味

（１）学級担任の外国語活動の授業力向上とは

学級担任が外国語活動の指導計画を立て、外国語活動における基礎的・基本的な指導技術を用いて授業を展開する力を身に付け続けることである。

授業力については、福岡県教員育成指標で示された学習指導において求められる資質・能力である「授業構想力」「授業展開力」から捉えることにする。外国語活動における「授業構想力」「授業展開力」の具体は以下に示すとおりである。

【授業構想力】　・単元目標を達成するための単元指導計画を立てる。
・ねらい達成のための、一単位時間の活動構成を考える。
・メインアクティビティの目的や場面を考えることができる。

【授業展開力】　・児童に活動の目的や場面を意識させる導入をすることができる。
・デモンストレーションややりとりを通して活動を理解させる。
・クラスルームイングリッシュを用いた指示や発問ができる。
・本時のねらいから児童の学びを評価することができる。

これらの力は、一度の実践で身に付くものではない。実践上の課題を解決するために、取り組んだことを振り返ってよさを認識したり、足りない点は修正したりして、再度実践したりする。このことを繰り返すことで少しずつ身に付いていくものと考える（図１）。

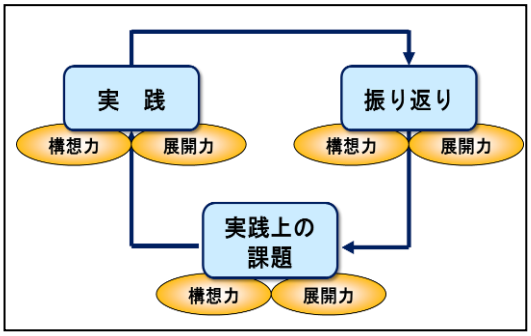


図１　授業力が向上する仕組み

以上のことから、本研究で目指す学級担任の姿を次のように設定する。

○　学習指導要領に示された目標と内容に基づき、外国語活動教材を活用した単元指導計画及び一単位時間の授業計画を立案することができる。　【授業構想力】
○　外国語活動における導入や発問、英語を用いた指示や説明といった基礎的・基本的な指導技術を使って授業を展開することができる。　【授業展開力】
○　外国語活動における自身の授業実践上の課題を見いだし、計画立案、実践、振り返りを繰り返して解決しようとする。　【授業をよりよくしようとする態度】

（２）キャリアステージに応じたコーチングシートの活用について

○　キャリアステージについて

教員のキャリアステージは、主に経験年数によって分けられる。しかし、外国語活動の授業における経験は、教員経験年数と比例するとは限らない。英語の得手不得手や研修経験の有無、さらに低学年担任が多い教員は授業経験が少ないといった担任学年の傾向も関係してくるものと考える。そこで、本研究におけるキャリアは、次の２点から捉えることにする。

①外国語活動の授業をしたり研修を受けたりしたことがあるか…授業経験

②外国語活動の授業をすることへの自信があるか…授業力についての自己評価

①に関しては授業経験４年、②に関しては自己評価 3.0（４件法にて評価）を基準として分類すると、四つのステージに分類することができる（図２）。これをキャリアステージとする。

・ステージⅠ…授業経験、自己評価ともに低い。
・ステージⅡ…授業経験はあるが、授業力に対する自己評価は低い。
・ステージⅢ…授業経験は少ないが、英語が得意であったり、外国語活動の授業への自信があったりする。
・ステージⅣ…授業経験が豊富で、授業力が十分である。

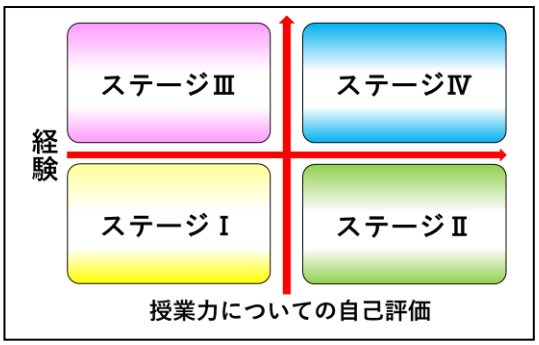


図２　キャリアステージの分類

うきは市の学級担任の実態から、本研究においてはステージⅠ、Ⅱ、Ⅲの教員を研究対象とし、ステージⅣに近付けることを目指すものとする。

○　キャリアステージに応じたコーチングとは

キャリアステージⅠ、Ⅱ、Ⅲの教員をステージⅣに近付けるために、キャリアに応じて授業構成や授業展開について承認したり、称賛したり、提案したりすることである。

知識や経験が少ないステージⅠの教員には、外国語活動の授業をすることへの不安感を取り除き、自信をもたせていくために、チャレンジしたことを認めたり、褒めたりしながら、取り組みやすい課題を見いだすことができるようにする。一方、ステージⅢの教員に対しては、授業づくりに関する課題を意識できるように働きかけていく必要がある。（図３）。このように、キャリアステージによって「承認」「称賛」「提案」の質と量を変えていくことが大切である。「承認」「称賛」「提案」については表１に示す。

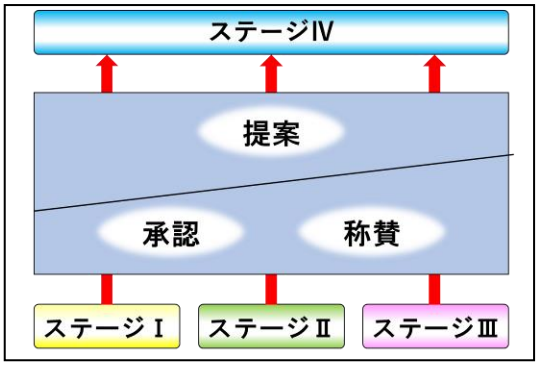


図３　キャリアステージに応じたコーチング

表１　「承認」「称賛」「提案」の内容と主に対象とするキャリアステージ

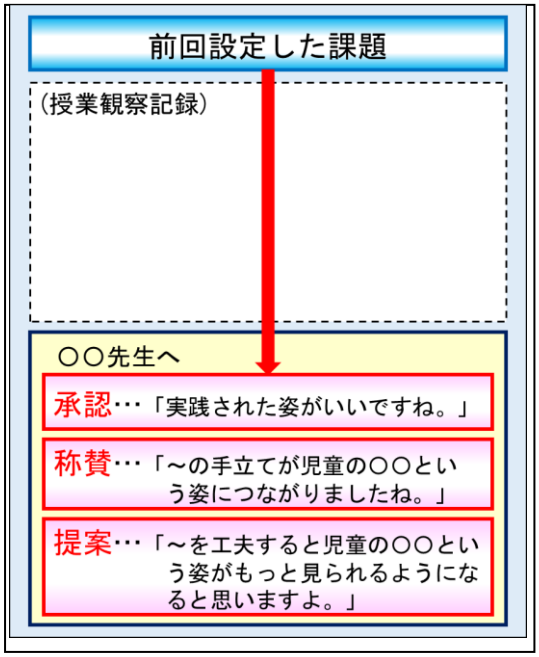
	承　認	称　賛	提　案
内容	授業構想や授業展開のどんな点に気を付けて授業づくりを行ったのかについて引き出し、その「行動」「姿勢」「変化」を認める。	授業づくりの手立てが、児童が外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ姿に、どのようにつながったかを価値付けして褒める。	児童が外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむために、言語活動を設定する際の授業づくりの手立てについて、アイデアを伝える。
具体例	今日の授業で特に意識したことは何ですか？ 活動の指示をクラスルームイングリッシュを使って行いました。 何とか英語で話そうとされた姿がいいですね。	ペアで文房具を作り合う活動を設定しました。 ペアで文房具を作り合うことで、繰り返し「What do you have?」「I have ～.」を使い、児童が体験的に表現に慣れ親しんでいましたね。	児童が「英語で伝えたい」という目的をもつために、導入で先生のモデルを見せるといいですよ。活動の見通しをもつことにもつながりますよ。 次の時間は、導入を工夫したいと思います。
対象	ステージⅠ，Ⅱ，Ⅲ	ステージⅡ	ステージⅠ，Ⅲ

○　キャリアステージに応じたコーチングシートとは

授業構想や授業展開についての承認、称賛、提案の対話を紙面上で行うツールである。

コーチングでは、直接の対話を通して実践を振り返り、相手からよさを引き出したり、次の課題を見いださせたりすることが大切である。しかし、市内の複数の学校を兼務している外国語活動専科の立場では、担任教員と向き合い、じっくり話をする時間をもつことができない。そこで、この課題を解決すべく、紙面を介して対話を行うのが、コーチングシートである。

コーチングシートは、前回設定した課題について授業観察した上で、実践されたことに対する「承認」、本時の効果的な手立てに対する「賞賛」、そして授業づくりの更なる手立てのアイデアの「提案」で構成する（資料１）。このコーチングシートを用いることは、直接話をする時間を短縮するだけでなく、音声による会話では消えてしまう情報が文字として残るため、繰り返し見直すことができるという利点がある。



資料１　コーチングシートの構成

○　キャリアステージに応じたコーチングシートの活用とは

学級担任が自身の課題を見いだし、計画、実践、振り返りを繰り返すことを促すために、コーチングシートを外国語活動専科と学級担任との対話の中心に据えることである。

まず学級担任は外国語活動の授業構想、授業展開の視点から授業を計画し、実践する。授業後、外国語活動専科は学級担任に対して、「特に意識したことは何か。どのくらいの達成度か。」という自己評価を引き出したり、次の授業の簡単な流れを確認したりする直接の対話を行う。

次にコーチングシートを用いて、学級担任が意識して取り組んだ課題についての「承認」と「称賛」、そして次の時間の授業づくりについての「提案」を記述し、机上に置いておく。さらに、コーチングシートを基に、学級担任は自身の授業実践を振り返って次の課題を見いだし、計画、実践を行っていくのである（図４）。このようなコーチングシートの活用を毎週行っていく。

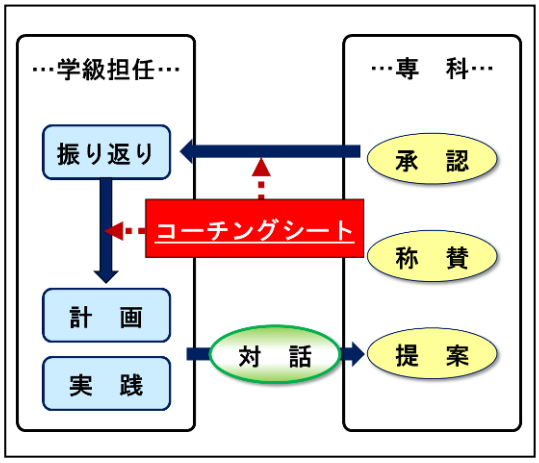


図４　コーチングシートによる授業改善

このように、外国語活動専科と学級担任との対話の中心にコーチングシートを据えた授業改善を繰り返すことによって、学級担任は自身の課題を解決しながら、学習指導要領の目標を達成するための外国語活動の授業構想力、授業展開力を身に付けていくものと考える。

３　研究の目標

学級担任の外国語活動の授業力を向上させるために、学級担任のキャリアステージに応じたコーチングシートを活用した、外国語活動専科の指導、助言の在り方を明らかにする。

４　研究の仮説

学級担任のキャリアステージに応じて、外国語活動専科が、コーチングシートを用いた学級担任との対話を以下の三つの視点から繰り返せば、学級担任が課題を見いだし、計画、実践、振り返りを繰り返しながら授業構想力、授業展開力を身に付けていくであろう。

視点１：授業力向上の視点をもたせる授業モデル

視点２：「承認」「称賛」「提案」を強化する外国語活動通信の作成

視点３：授業づくりの土台となる教材、教具の提供

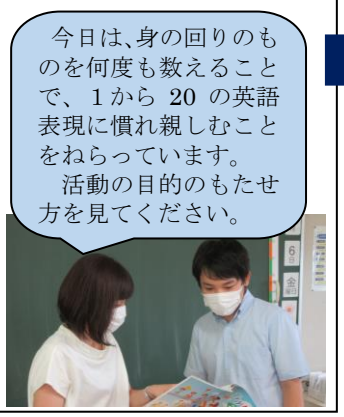
５　研究の構想

（１）授業力向上の視点をもたせるための授業モデルについて

キャリアステージⅠの教員は、外国語活動の授業経験が少ない。また、ステージⅡ、Ⅲの教員も新学習指導要領に基づいた外国語活動の授業経験は多くない。それぞれのステージの学級担任が自身の課題を見いだし、授業づくりを行うためには、外国語活動の授業のイメージをもつことが大切である。そこで、学習指導要領の目標や内容を踏まえた外国語活動の授業モデルを外国語活動専科が示し、学級担任に参観してもらうことで、授業構想、授業展開の視点を明確にもてるようにする。その際、キャリアステージに応じて、授業展開から授業構想へというように、意識してもらう視点を変えていく。授業のモデルについては、打合せの十分な時間が確保できないので、資料２に示す計画、実践、振り返りの手順で提示をする。

【　計　画　】

事前に市内共有フォルダを使って授業のめあてと活動構成を共有した上で、授業参観の視点を授業前に伝える。

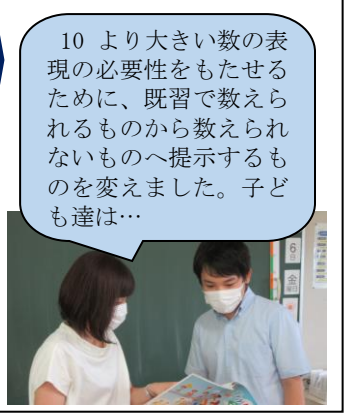


【　実　践　】

実際に授業を行い、ねらいを達成するための活動の仕組み方や、英語を使った指示や説明といった指導技術の具体を示す。

【　振り返り　】

本時の授業のねらいと児童の姿を照らし合わせて、授業参観の視点からの自己評価を伝える。



資料２　授業力向上の視点をもたせる授業モデル提示の手順

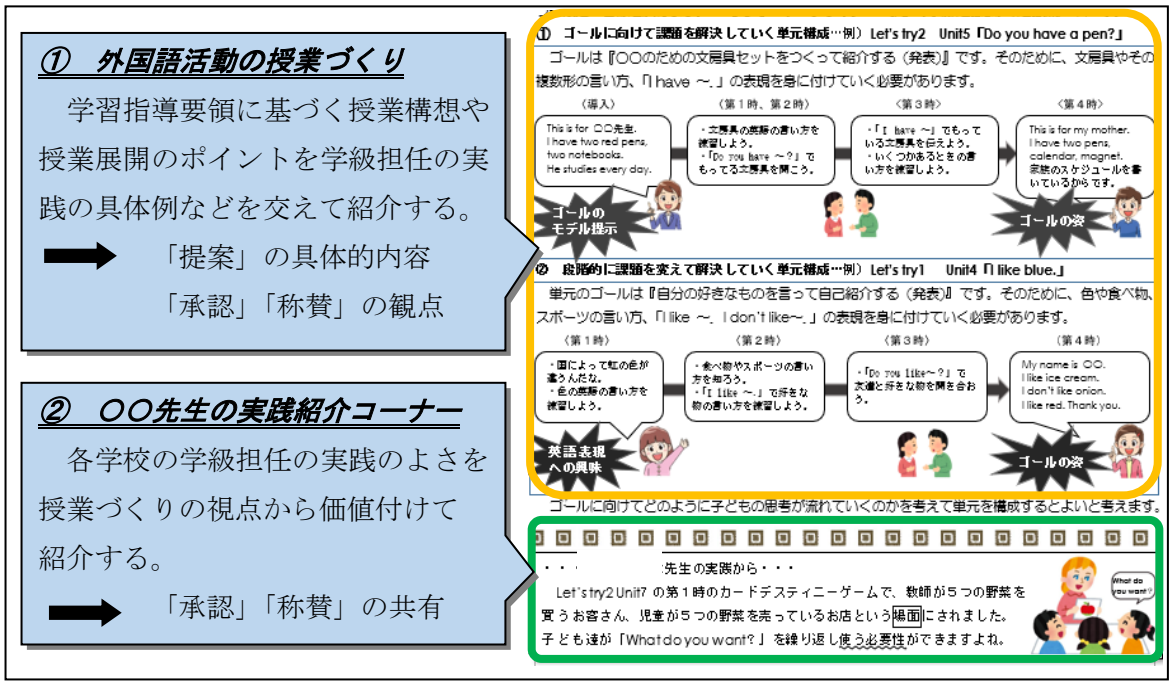
さらにモデルの提示については、単元を通して提示したり（パターン①）、一単位時間や活動単位で提示したり（パターン②）するなど、学級担任のキャリアステージと課題に応じて柔軟に行っていく（表２）。

表２　キャリアステージに応じたモデル提示のパターン

	パターン①	パターン②
目的	単元レベルでモデル提示をすることで、単元を通した授業構想力を身に付けることができるようにする。	単位時間レベルでモデル提示をすることで、一単位時間の授業構想力、授業展開力を身に付けることができるようにする。
方法	モデル：第１時　第２時　第３時　第４時 ↓ 担任の実践：第１時　第２時　第３時　第４時	モデル：第１時　第２時　第３時 → 担任：第４時 モデル：第１時 → 担任：第２時　モデル：第３時 → 担任：第４時
対象	ステージⅢ ←	ステージⅠ

（２）「承認」「称賛」「提案」を強化する外国語活動通信の作成

授業構想の考え方や授業展開に必要な指導技術について、学級担任全員で共有するために、『外国語活動通信』を作成し、配布する。通信は、資料３に示す「外国語活動の授業づくり」と「実践紹介」の二つの内容で構成する。授業構想や授業展開について具体的に紹介することで、学級担任が「提案」の内容を理解するのを助けるとともに、課題設定や計画立案の見通しに活用できるようにする。ここに紹介する内容は、「承認」「称賛」する観点にもつなげていく。また、市内の中学年担任の実践を紹介することで、「承認」「称賛」を共有するとともに各自の課題解決に生かせるようにする。



資料３　「承認」「称賛」「提案」を強化する外国語活動通信の構成

（３）授業づくりの土台となる教材、教具の提供

うきは市内では、外国語活動の教材として文部科学省著作刊行物「Let’s　Try！」を使用している。計 20 名の市内の中学年担任が使用する教材や教具がばらばらでは、適切なコーチングを行うことは難しい。そこで、同じ土台に立って授業づくりができるように、絵カードや学習ノートを作成し、情報として提供する(資料４)。そして学級担任が、学級の実態に応じて、絵カードを取捨選択したり、学習カードをアレンジして授業に活用できるようにする。

①　絵カード、センテンスカード

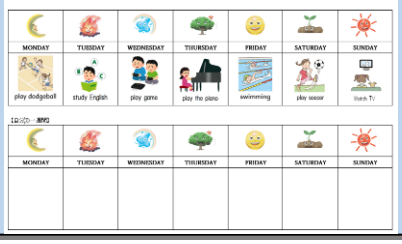
単元で必要な言語材料が明確になり、言語材料を用いたコミュニケーション活動を仕組む土台になる。

What day is it?
何曜日ですか？

How is the weather?
天気はどうですか？

②　学習ノート

ねらいを達成するための目的や場面が明確になり、言語活動の目的、場面づくりの土台になる。



資料４　授業づくりの土台となる絵カードや学習ノートの例

（４）実践検証の進め方について

本研究では、具体的な実践を通して、「キャリアステージに応じたコーチングシート」を活用した外国語活動専科の関わり方の構想が有効であるかどうかを以下の方法で検証していく。

検証１：授業観察……授業構想力、授業展開力の要素が身に付いているか、質問紙(表３)の項目について、実際の授業観察を通して見取る。

検証２：直接の対話…授業後の直接対話の中で、自身の課題としている項目について自己評価をさせる。

検証３：アンケート…授業構想力、授業展開力に関する質問紙を基に自己評価する。尚、質問紙は４件法で取るものとする。

検証１、２に関しては毎時間の授業後、検証３に関しては実践の前、後に評価することで総合的に見取っていくことにする。

表３　授業構想力と授業展開力を見取る質問紙の内容

授業構想力	ア	単元の目標を達成するために、４(３)時それぞれのねらいを具体化することができる。
	イ	具体化したねらい達成のために、めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りといった学習過程を考えることができる。
	ウ	メインアクビティの場面を、使わせたい表現が使えるように構成することができる。
	エ	ALTと効果的に連携できるように指導計画を立てることができる。
授業展開力	オ	児童にコミュニケーション活動の目的や場面を意識させるような導入の工夫ができる。
	カ	活動内容を短時間で理解させるために、デモンストレーションややりとりをすることができる。
	キ	英語を使うモデルになるように、クラスルームイングリッシュを用いた指示や発問ができる。
	ク	授業のまとめに、児童に気付いてほしい姿を褒めたり、児童の振り返りを意図的に指名したりすることができる。

（５）研究構想図（図５）

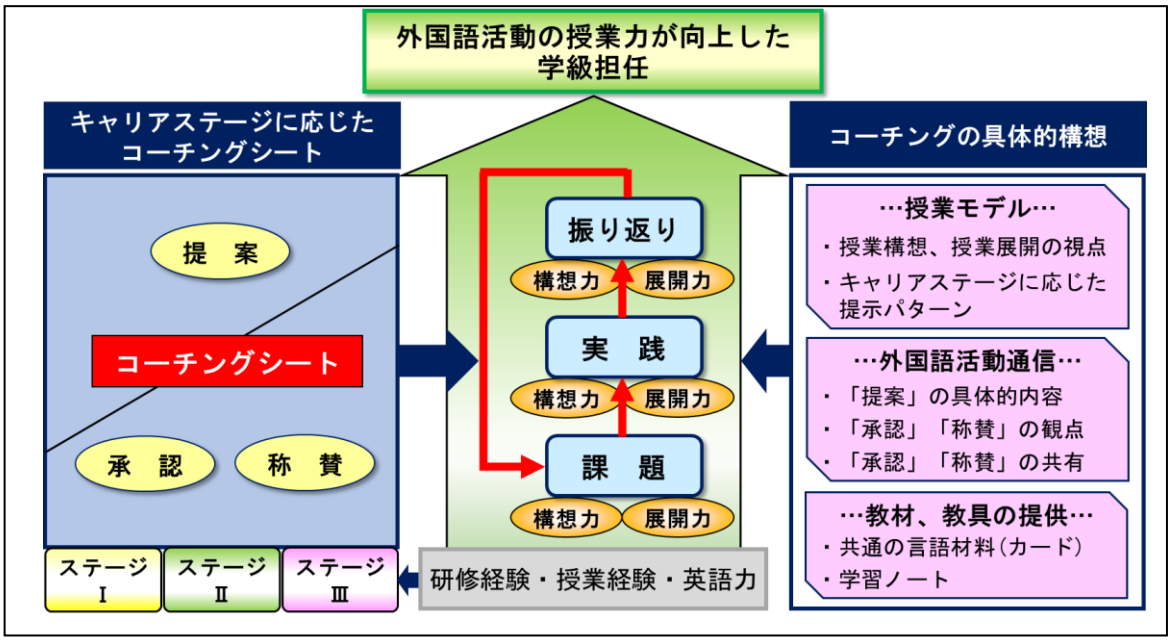


図５　学級担任の授業力向上を目指す研究構想図

６　研究の実際

１学期は、外国語活動の授業のイメージがもてるように、キャリアステージに関わらず、全単元で授業モデルを示した。２学期以降、学級担任による授業実践へと移行していった。

（１）ステージⅠ：Ｈ教諭のコーチングの実際

【実践前はこうだった】	【実践後にこうなった！】
○　外国語活動の授業経験がなく、どのように授業をするかよく分からない。 ○　自分自身は英語が苦手ではないが実際に教えるとなると、自信はない。	○　単元のねらいを立て、単元のゴールに向けた活動を考えることができた。 ○　外国語活動の授業を考え、実践することが楽しいと感じるようになった。

Ｈ教諭は、Ａ小学校に勤務する初任者であり、当然のことながら外国語活動の研修及び授業経験はない。そこで、実践を通して目指すＨ教諭の姿を以下のように設定した。

○　単元のねらいを専科と共に設定し、一単位時間の授業計画を立てることができる。
○　外国語活動の基礎的・基本的な指導技術を二つ程度身に付け、授業を展開できる。
○　授業における課題を設定し、計画、実践、振り返りを繰り返して解決しようとする。

①　９月の実践　　第４学年　Let’ｓ Try２　Unit５（４時間）

	第１時	第２時	第３時	第４時
モデル提示（構想①）	○		○	
通信の作成（構想②）	○単元の学習過程の考え方 →	→	→	→
教材、教具（構想③）		○		○

ア　第１時　（モデル提示）

第１時は外国語活動専科がモデル授業を行った。モデル授業参観の視点は「一単位時間の基本的な授業の流れ」とした。一単位時間の授業の流れとは、「導入→メインアクティビティ→振り返り」である。モデル提示の前後には、対話を行った（資料５）。

計　画

専：今日は、一時間の授業の流れを見てください。第１時なので、新しい文房具の表現を聞き慣れることをねらいます。そのために、繰り返し聞かせる場を作っています。

振り返り

専：リスニングとＩ spy ゲームで、繰り返し文房具の表現を耳にしたので少し慣れてきましたね。

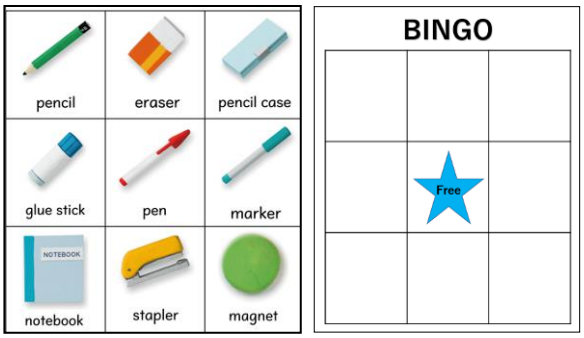
Ｈ：次の時間はどのように進めたらいいでしょうか。

専：次は、聞くだけでなく、少しずつ発音できることをねらいにしましょう。

資料５　第１時のモデル提示前後の対話の内容

授業後は、参観の視点に関する振り返りを伝えた。すると、第２時の進め方に不安をもったＨ教諭が「次の進め方はどうしたらいいですか。」と尋ねてきた。そこで、次の時間のねらいと簡単な流れについて助言をした（資料５波線部）。

さらに、次時の活動を担任が自分で進められるように、児童用の文房具の絵カードとビンゴシートを提供した（資料６）。



【児童用絵カード】　【ＢＩＮＧＯシート】

資料６　活動で使えるように提供した教具

イ　第２時（Ｈ教諭の実践）

授業では、文房具の絵カードとビンゴシートを活用して「I have ～.」の表現を使ったビンゴを進めることができた。これは、前時のモデル提示の際に参観の視点を明確にしたことで、活動のイメージをもつことができたからだと考える。しかし、学習過程が途切れ途切れになり、児童が活動の必要性を感じていないように見えた。つまり、活動レベルのみで考え、一単位時間の活動のつながりを考えた授業構想ができていないのである。そこで、授業に取り組む姿への「承認」と、課題である授業構想（**イ**）「学習過程」、よさを伸ばす授業展開（**キ**）「クラスルームイングリッシュ」に視点を絞り、コーチングシートで「提案」した（資料７）。

		評価の観点	専
構想	イ	めあてつくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	2
授業展開力	オ	児童に活動の目的や場面を意識させる導入の工夫。	1
	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションややりとり。	1
	キ	英語を使うモデルになるクラスルームイングリッシュを用いた指示や発問。	2
	ク	児童に気付いてほしい姿を褒めたり、振り返りを意図的に指名したりする。	1

【専科による評価（第２時）】

あいさつから復習まで スムーズに 進められて、すごいなと思いました。何よりも先生が楽しそうに授業をされているのが とてもいいです。外国語活動なので、楽しく英語を使う 友達とやり取りをすることが大切だと思うからです。

承認

気づいたこと、もっとこうすればよくなるのでは？ということを２つ書きます。

①、Let's Listen と ビンゴのつながりがありませんでした。活動につながりをもたせると子どもの思考がスムーズになります。例えば Let's Listen で もっている文ぼう具を伝えていたので、その表現を 自分たちも使う練習をしてみようという流れで ビンゴを（I have）するとか…。活動の流れを意識してみて下さい。

提案

② 少しずつ ホームルームイングリッシュを 増やしていく。今日 授業をしてみて「こんな時何と言えばいいかな？」と思った指示の英語を調べて 使っていくといいと思います。

宮崎

【１回目の授業後のコーチングシート】

資料７　第２時の授業観察の評価を基に「称賛」「提案」をしたコーチングシート

ウ　第３時（Ｈ教諭の実践）

課題　○活動に興味をもたせるために、活動のつながりを意識すること（**授業構想イ**）
○クラスルームイングリッシュを少しでもよいので使うこと（**授業展開キ**）

モデル提示パターン②では、第３時は専科のモデルの時間である。しかし、Ｈ教諭が「授業に慣れるために次もやります。」と意欲的であったため、学級担任による実践を行った。そこで、授業でよく使うクラスルームイングリッシュ一覧を作成し、提供をした（資料８）。

まず、授業前に、本時の流れと今回の課題について対話で確認した（資料９）。資料９波線部から分かるように、Ｈ教諭は本時の授業を行う上で「活動につながりをもたせること」と「クラスルームイングリッシュを使うこと」を課題としていた。これは、コーチングシートで「提案」した授業構想（**イ**）と授業展開（**キ**）の視点である。

授業では、「Open your textbook.」「Look at the TV.」といったクラスルームイングリッシュを用いて指示する姿が見られた。また、最初の活動で、動画で外国の子ども達の持ち物について聞き取った後、「みんなはどんなものを持っているか。」「みんなも持ち物を紹介できるかな。」と発問し、メインアクティビティにつないだ。これは、Ｈ教諭が本時の二つの課題を意識して授業を行った姿だと言える。

しかし、メインアクティビティに入ると、日本語で活動方法を説明しようとした。そこで、急遽、デモンストレーションのモデルを示した（資料 10）。これは授業展開（**カ**）の視点である。授業後は、対話をする時間が十分になかったため、コーチングシートで「承認」とデモンストレーションのモデルの振り返りを伝えた（資料 11）。

クラスルーム　イングリッシュ

授業の始まり終わりに	
英語の学習を始めましょう。	Let's start English class.
今日は何曜日ですか？	What day is it today?
今日は何月何日ですか？	What is the date today?
天気はどうですか？	How is the weather today?
誰か休んでいますか？	Who's absent today?
今日はこれで終わります。	That's all for today.
次の授業で会いましょう。	See you next class(time).
活動の中で	
大きな声でお願いします。	Speak louder /Speak up

資料８　クラスルームイングリッシュ一覧

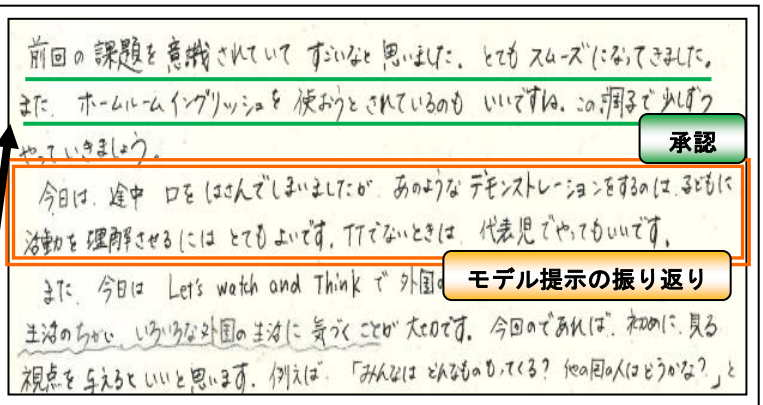
専：今日の授業はどのように進めますか。
Ｈ：今日は、Let's Watch and Think で持ち物を紹介する活動に興味をもたせようと思います。
専：活動の目的がもてそうでいいですね。他に気を付けるところはありますか。
Ｈ：クラスルームイングリッシュを使うことを意識してみます。

資料９　授業前の対話による課題の確認

資料 10　デモンストレーションのモデル

評価の観点			専
構想	イ	めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	2
授業展開	オ	児童に活動の目的や場面を意識させる導入の工夫。	2
	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションややりとり	1
	キ	英語を使うモデルになるクラスルームイングリッシュを用いた指示や発問。	2
	ク	児童に気付いてほしい姿を褒めたり、振り返りを意図的に指名したりする。	1

【専科による評価（第３時）】



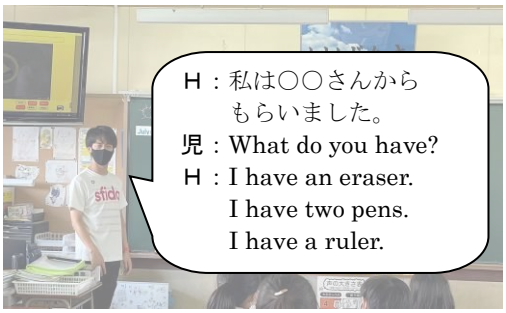
【第３時の授業後のコーチングシート】

資料 11　第３時の授業観察の評価を基に「承認」をしたコーチングシート

エ　第４時（Ｈ教諭の実践）

課題　○活動に興味をもたせるために、活動のつながりを意識すること（**授業構想イ**）
　　○クラスルームイングリッシュを少しでもよいので使うこと（**授業展開キ**）

第４時は、児童がこれまでに身に付けた英語の表現を使って、文房具セットを紹介することがねらいである。そのために、Ｈ教諭は、ペアで文房具セットを作り合い紹介する活動を設定していた。すると、児童が発表する前に、Ｈ教諭は、自分がもらった文房具を紹介するデモンストレーションを行った（資料 12）。児童は教師の発表をモデルに、「I have ～.」を使って、自分の文房具を紹介し合うことができた。



資料 12　デモンストレーションをするＨ教諭

授業後、「今日の授業はどうでしたか。」と質問をすると、「子ども達が楽しんで活動をしていました。」と手ごたえを感じていた（資料 13 波線部）。その理由を尋ねると、「児童にどんな活動をさせるのか、私自身がきちんとイメージできていたから。」と答えた。これは、次の時間のねらいについて一緒に考えたり助言をしたりしたことで、Ｈ教諭が授業のねらいを明確にもち、活動を設定することができたからだと考える。また、デモンストレーションについては、コーチングシートで「提案」をしたものではなかったが、Ｈ教諭が自身の課題として追加し、自ら改善しようとしたものである。これは、前回の授業でモデルを示したことが、授業展開（**カ**）の課題に気付かせる上で有効に働いたからだと考える。

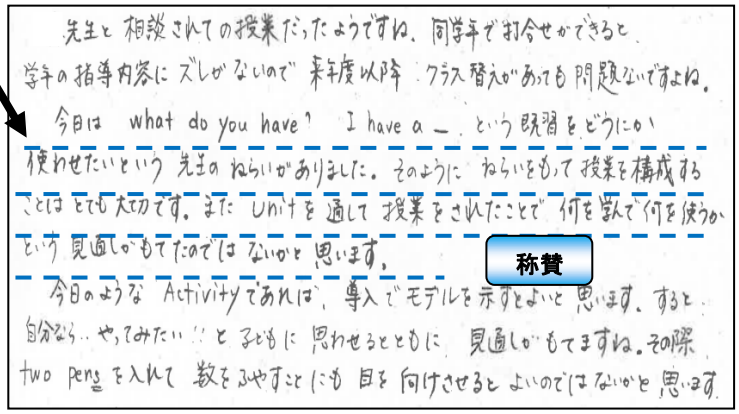
専：今日の授業はどうでしたか。
Ｈ：活動の中で、子ども達が楽しんで英語を使っていたと思います。
専：それはなぜだと思いますか。
Ｈ：どんな活動をさせるか、はっきりしていました。
専：いいですね、デモンストレーションで、子ども達にも理解させられましたね。
Ｈ：はい。前回できていなかったので、今回はデモンストレーションを入れました。
専：とてもいいですね。

資料 13　第４時授業後の対話

そこで、コーチングシートでは、Ｈ教諭が授業への自信と意欲を更にもつことができるように、自身の課題を解決しようと取り組んだ姿への「称賛」を中心に行った（資料 14）。

評価の観点			専
構想	イ	めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	2
授業展開力	オ	児童に活動の目的や場面を意識させる導入の工夫。	2
	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションややりとり。	2
	キ	英語を使うモデルになるクラスルームイングリッシュを用いた指示や発問。	3
	ク	児童に気付いてほしい姿を褒めたり、振り返りを意図的に指名したりする。	1

【専科による評価（第４時）】


先生と相談されての授業だったようですね。同学年で打合せができると
学年の指導内容にズレがないので来年度以降クラス替えがあっても問題ないですよね。
今日は what do you have? I have a ＿ という既習をどうにか
使わせたいという先生のねらいがありました。そのようにねらいをもって授業を構成する
ことはとても大切です。またUnitを通して授業をされたことで何を学んで何を使うか
という見通しがもてたのではないかと思います。
称賛
今日のようなActivityであれば、導入でモデルを示すとよいと思います。すると
自分なら…やってみたい!!と子どもに思わせるとともに見通しがもてますね。その際
two pens を入れて数をふやすことにも目を向けさせるとよいのではないかと思います。

【第４時の授業後のコーチングシート】

資料 14　第４時授業観察の評価を基に「称賛」をしたコーチングシート

② 考察

表４は、単元を通して行った支援と担任の反応、専科の評価、コーチングシートの内容を整理したものである。また、表５は実践前後にとったＨ教諭の自己評価の結果である。

表４　Unit５におけるＨ教諭への支援と授業の評価

	第１時	第２時	第３時	第４時
モデル提示（構想①）	○		○（一部）	
通信の作成（構想②）	○単元の学習過程の考え方	→	→	→
教材、教具（構想③）		○	○	○
担任の反応		・何とか進めることができた。 ・ビンゴは楽しくできたと思う。	・クラスルームイングリッシュを意識して使えた。 ・デモンストレーションの仕方が分かった。	・一時間の授業をすることに慣れてきた。 ・児童が意欲的に活動に取り組むことができた。
専科の評価		○計画した活動を進めることができた。 △二つの活動につながりがない。	○クラスルームイングリッシュが使えた。 ○活動をつなぐ意識が見えてきた。 △活動の説明が長い。	○クラスルームイングリッシュが増えた。 ○授業のねらいにつながる活動ができた。 ○デモンストレーションで説明できた。
コーチングシートの内容		承認 ・楽しむ姿 提案 ・一時間の学習過程 ・英語を用いた指示	承認 ・一時間の学習過程 ・英語を用いた指示	称賛 ・ねらいを意識した活動

ア　授業構想力について

専科の評価（表４太枠）を見ると、活動につながりがなかった第２時と比べて、第３、４時と、本時のねらいを達成するための活動をつないで構成できるようになっていることが分かる。つまり、一単位時間の授業計画を立案できるようになった姿だと捉える。これは、コーチングシートで、一単位時間の授業構想に視点を絞って「提案」をしたことが有効であったからだと考える。

表５　Ｈ教諭の自己評価の変容

評価の観点			前	後
構想	イ	めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	1	2
授業展開力	オ	児童に活動の目的や場面を意識させる導入の工夫。	1	2
	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションややりとり。	1	2
	キ	英語を使うモデルになるクラスルームイングリッシュを用いた指示や発問。	1	3
	ク	児童に気付いてほしい姿を褒めたり、振り返りを意図的に指名したりする。	1	1

その「提案」が有効に働いたのは、モデルを示して授業の全体の流れをイメージさせ、教材や教具を提供することでＨ教諭が授業のねらいや使用する言語材料を明確にすることができたからだと考える。

イ　授業展開力について

Ｈ教諭の反応及び専科の評価（表４点線枠）を見ると、この単元を通して「（カ）デモンストレーションによる活動の説明」「（キ）クラスルームイングリッシュを用いた指示や発問」という指導技術を意識して授業を行うことができるようになっている。特にクラスルームイングリッシュについては、Ｈ教諭の自己評価も高い（表５）。これは、Ｈ教諭が取り組みやすそうな項目からコーチングシートで「提案」したことが有効に働いたからだと考える。

その「提案」が有効に働いたのは、モデル提示パターン②において、不十分な項目についてその都度モデルを示したこと、またクラスルームイングリッシュ一覧という教具を提供したことで、Ｈ教諭がすぐに授業に生かすことができたからだと考える。

ウ　授業をよりよくする態度について

Ｈ教諭は、第３時では授業構想（イ）と授業展開（キ）、そして第４時では授業展開（カ）を自身の課題に設定し、解決してきた。これは、課題解決に向けて計画、実践、振り返りを繰り返す姿であると捉える。このような姿が見られたのは、コーチングシートを用いて、最初に「提案」し、その課題を解決する姿を「承認」「称賛」していったことが有効であったからだと考える。また、スモールステップで改善の視点を「提案」したことで、Ｈ教諭は無理のない課題を設定することができ、外国語活動の授業への自信をもつことができたのである。

しかし、今回、外国語活動通信については、キャリアステージＩのＨ教諭を紹介する機会がなかったため、その有効性を確認することはできなかった。

（２）ステージⅡ：Ｍ教諭のコーチングの実際

【実践前はこうだった】		【実践後にこうなった！】
○　外国語の研修経験はあるが、英語があまり得意ではないため、授業をすることについては自信がない。	→	○　授業への自信がついてきた。 ○　英語への興味をもち、勉強の機会をもつようになった。

Ｍ教諭は、Ｂ小学校に勤務する経験年数７年目の教員で、県が主催する外国語に関する研修の受講経験がある。しかし、Ｍ教諭自身は英語を話すことに苦手意識を感じており、授業への自信がもてていない。つまり、Ｍ教諭はキャリアステージⅡである。そこで、実践を通して目指すＭ教諭の姿を以下のように設定した。

○　学習指導要領の目標と内容を踏まえて、単元指導計画及び一単位時間の授業計画を工夫して立てることができる。
○　外国語活動の基礎的・基本的な指導技術を生かしたり、不十分なものを更に身に付けたりして、授業を展開できる。
○　授業における課題を設定し、計画、実践、振り返りを繰り返して解決しようとする。

①　２学期の実践　第４学年　Let’s Try ２　Unit６からUnit７

学年交換授業のため、Unit６の第３時からUnit７の第２時までは実践ができなかったため、２単元を通した実践について述べる。

	U６第１時	U６第２時		U７第４時
モデル提示（構想①）	※前単元をモデルに（提示パターン①）			
通信の作成（構想②）	○目的に応じた活動例 →			○単元構成の工夫
教材、教具（構想③）	○	○		○

ア　第１時（Ｍ教諭の実践）

Unit５では、単元を通した授業構想の視点から、専科が授業モデルを提示した。そのモデルを参考にＭ教諭がUnit６の実践を行った。第１時では、Ｍ教諭が得意とするICTを使って、児童に教材を提示したり、児童の学習規律を大切にした声かけをしたりするという授業展開

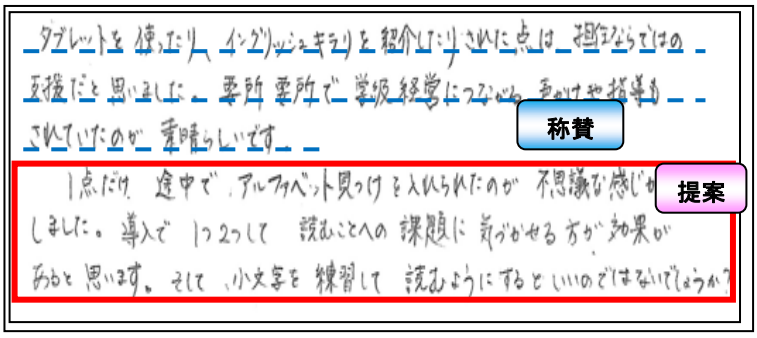
（オ）（ク）のよさが見られた。一方で、メインアクティビティがそれまでの学習の流れに合っていないように感じた。授業後の対話で、「なぜ、あの場面でアルファベット見つけをしたのですか。」と尋ねると、「どんな活動をすればよいか、考えられなかった。」ということだった（資料 15 波線部）。そこで、表６の授業構想力（**ウ**）の「メインアクティビティの場面」がM教諭の課題だと捉えるとともに、授業をすることへの自信をもたせることが大切だと考えた。そこで、コーチングシートでは、よさの「称賛」を中心に行い、課題に気付いてもらうための「提案」を一つ記入した（資料 16）。

表６　第１時における授業力の評価

評価の観点			専
授業構想力	ア	単元の目標を達成するために、各時間のねらいを具体化する。	3
	イ	めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	2
	ウ	メインアクビティの場面を考えることができる。	2
授業展開力	オ	児童に活動の目的や場面を意識させる導入の工夫。	4
	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションややりとり。	2
	キ	英語を使うモデルになるクラスルームイングリッシュを用いた指示や発問。	2
	ク	児童に気付いてほしい姿を褒めたり、振り返りを意図的に指名したりする。	4

専：ICT を上手に使っておられてましたね。ところで、今日のアルファベット見つけの活動はなぜ、あの場面で行ったのですか。
M：アルファベットを読ませないといけないと思って…。どんな活動をすればよいか、よく考えられませんでした。

資料 15　授業後の対話



資料 16　第１時の授業観察後のコーチングシート

イ　第２時（M教諭の実践）

課題　本時のねらいから、メインアクティビティの場面を工夫すること（**授業構想ウ**）

次週の指導計画を立てる際、M教諭が悩んでいる様子が見られたため、授業について一緒に考えた。M教諭の悩みは、「どんな活動を仕組めばいいか」についてだった。前回の授業を受け、課題を構想（**ウ**）「メインアクティビティの場面」に設定していたのである。このような悩みは、複数の学校でも見られたので「ねらいに応じたゲーム・活動例」についてまとめた外国語活動通信を作成した。M教諭には、その中にあるカードマッチングを紹介した（資料 17）。その際、「ただ単語の練習をするのではなく、言語材料の『Do you　have ～？』や『I have ○○.』を使う場面をつくることが大切。」という活動を考えるポイントを伝えた（資料 18）。

ゲーム・活動名	ねらい	内容、留意点　★アレンジ例
カードマッチング（仲間集め）	絵を見ながら繰り返し**発音**することで、英語表現の理解を深める。	カードをばらばらに配り、同じカードをもっている友達を集める。例えば、24 人だったら６種類×４枚など。その際、Do you have～？や I have ～, などを使うとやり取りの表現の定着につながる。
ドンじゃんけん		教科書の単語の列、または

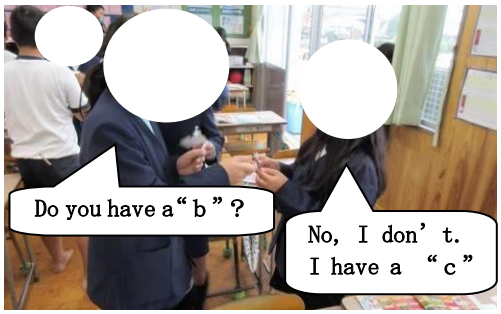
資料 17　ねらいに応じた活動例を紹介した外国語通信（一部）

M：第２時では、どんな活動をしようかと悩んでいます。
専：ねらいは何ですか。
M：アルファベットの小文字を繰り返し聞いたり言ったりして慣れることです。
専：既習の Do you have～？も使える状況をつくるといいですよね。

資料 18　授業前の対話の内容

授業でM教諭は、紹介したカードマッチングという活動を設定していた。そして、仲間を見つけられていない児童に対しては、全員で「What do you have？」と質問させる工夫をしていた。このことにより、児童は既習の「Do you have～？」を繰り返し、アルファベットの

小文字を伝えたり聞き取ったりして、表現に慣れ親しんでいた(資料 19)。このようなメインアクティビティを設定することができたのは、活動のねらいと内容を整理した通信を用いて助言をしたことが、授業のねらいに応じた活動を選択する上で有効であったからだと考える。

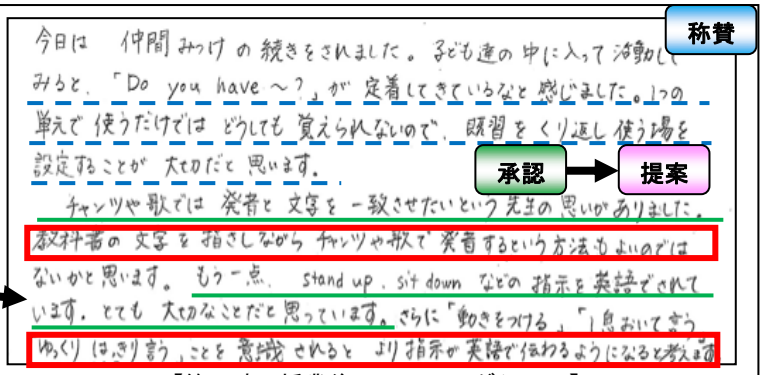


資料 19　アルファベットを伝え合う児童

そこでコーチングシートでは、この活動の価値を伝える「称賛」を行った。そして、M教諭が使った指導技術への「承認」と更に技術を高めるための「提案」を付け加えた(資料 20)。

評価の観点			専
授業構想力	イ	めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	3
	ウ	メインアクビティの場面を考えることができる。	2
授業展開力	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションやりとり。	3
	キ	英語を使うモデルになるクラスルームイングリッシュを用いた指示や発問。	3

【専科による評価(第２時)】



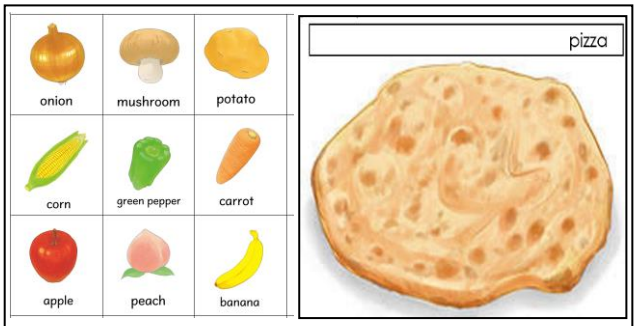
【第２時の授業後のコーチングシート】

資料 20　第２時の授業観察の評価を基に「称賛」「承認」したコーチングシート

ウ　Unit７第４時(M教諭の実践)

課題　本時のねらいから、メインアクティビティの場面を工夫すること(授業構想ウ)

Unit７の第４時のねらいは、繰り返し慣れ親しんだ「What do you want?」「I want ～.」を使って、互いの欲しいものを尋ねたり答えたりできることである。そこで、児童用のカードとピザ用シートを作成し、提供した(資料 21)。M教諭は、「〇〇ためのオリジナルピザ作り」をメインアクティビティの活動に設定した。そして、表現を使う状況を作り出すために、全員が活動するための野菜カードを準備し、お店に材料を買いに行くという場面を設定していた。このことにより、全ての児童が「What do you want？」「I want tomatos.」といったやりとりをすることができた。このような、M教諭の姿が見られたのは、自身の課題である授業構想(ウ)「メインアクティビティの場面の工夫」を意識して授業構想をすることができたからだと考える。資料 22 の波線部から分かるように、活動に使える教具を提供したこと



【児童用カード】　【ピザ用シート】

資料 21　活動に使えるように提供した教具

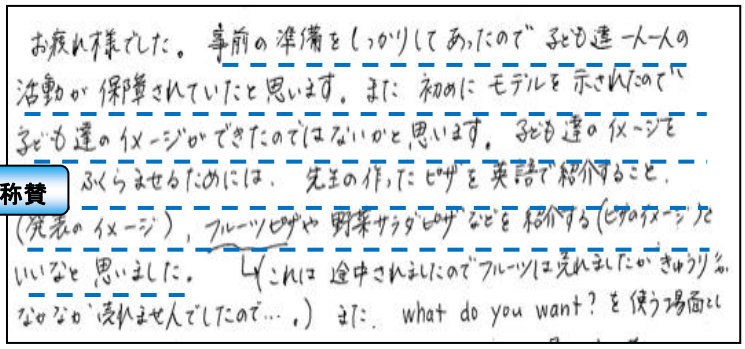
専：今日の授業はどうでしたか。
M：子ども達が進んで英語を使っていました。
専：そうですね。何がよかった思いますか。
M：お店という場面にして、絵カードのやり取りをさせたことだと思います。
専：全員分準備をされていて、大変でしたね。
M：野菜カードの原本があったので準備ができました。

資料 22　授業後の対話の内容

が、一人一人の言語活動を保証するための場づくりをする上で有効であったと言える。この時間のコーチングシートでは、場面づくりについての「称賛」を中心に行った(資料 23)。

評価の観点			専
授業構想力	イ	めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	3
	ウ	メインアクビティの場面を考えることができる。	3
授業展開力	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションやりとり。	4
	キ	英語を使うモデルになるクラスルームイングリッシュを用いた指示や発問。	3

【専科による評価(第４時)】



【「称賛」を中心に書いたコーチングシート】

資料 23　Unit7 第４時の授業観察の評価を基にしたコーチングシート

②　考察

表７は、２単元を通して行った支援と担任の反応、専科の評価、コーチングシートの内容を整理したものである。また、次頁表８は実践前後にとったM教諭の自己評価の結果である。

表７　Unit６、Unit７におけるM教諭への支援と授業の評価

	U６第１時	U６第２時		U７第４時
モデル提示(構想①)	※前単元をモデルに(提示パターン①)			
通信の作成(構想②)	○目的に応じた活動例 →			○単元構成の工夫
教材、教具(構想③)	○	○		○
担任の反応	・緊張して授業がうまく進められなかった。 ・クラスルームイングリッシュももう少しがんばりたい。	・活動の仕組み方が少しわかってきた。 ・クラスルームイングリッシュを意識して使えた。		・英語を使う具体的な場面を設定することができた。
専科の評価	○学級の実態に合わせた声掛けができる。 ○導入の工夫ができる。 △メインアクティビティの活動の選択。	○表現を使う状況を作り出す活動を選択することができた。 ○活動の中に学級に合った工夫がある。		○活動の場面を工夫して設定できた。 ○デモンストレーションによって活動のイメージをもたせた。
コーチングシートの内容	称賛 ・ICTの活用 ・児童への声掛け 提案 ・活動の場面づくり	称賛 ・活動の場面づくり 承認 → 提案 ・英語を用いた指示		称賛 ・活動の場面づくり

ア　授業構想力について

専科の評価(表７太枠)を見ると、M教諭の授業構想力の中で課題であった(ウ)「メインアクティビティの場面の工夫」が徐々にねらいにあったものになっていると言える。このことは、担任の反応の変化からも言える。また、そこに学級の実態やM教諭の得意分野を踏まえた工夫がされている。これは、学習指導要領の目標を踏まえた授業計画を工夫して立てている姿だと捉えることができる。このような姿が見られたのは、コーチングシートにおいて、「提案」したことについての「称賛」を繰り返したことが有効であったからだと考える。

この「提案」が有効に働いたのは、授業づくりの視点からのポイントから整理した外国語

活動通信を作成したことで、学級担任が「提案」「承認」「称賛」の内容を理解し、計画に生かすことにつながったからだと考える。また、教材、教具の提供が授業構想の土台となり、自分で工夫しながら授業で計画する上で有効であったからだと考える。

イ　授業展開力について

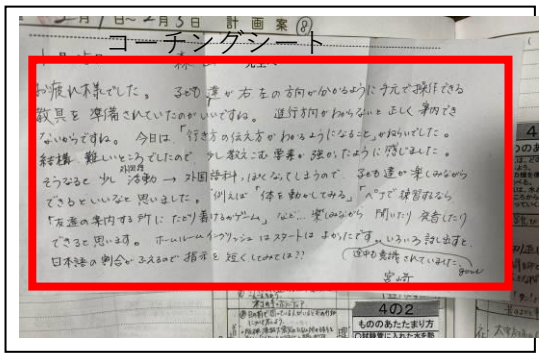
M教諭の反応及び専科の評価(前頁表７点線枠)を見ると「(キ)クラスルームイングリッシュを用いた指示や発問」の指導技術を高めていった姿が見られる。これは、M教諭が見いだした自身の課題であり、「英語に慣れるために、車の中で英語を聞くようにしています。」と言っていた。表８の自己評価の変容からは、授業構想力と共に授業展開力を身に付けていることが分かる。このような姿が見られたのは、コーチングシートにおいて、指導技術を使っていることへの「承認」から、更によくする「提案」という順序で行ったことだ有効であったからだと考える。

表８　M教諭の自己評価の変容

		評価の観点	前	後
授業構想力	ア	単元の目標を達成するために、各時間のねらいを具体化する。	1	3
	イ	めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	2	3
	ウ	メインアクビティの場面を考えることができる。	1	3
授業展開力	オ	児童に活動の目的や場面を意識させる導入の工夫。	3	3
	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションややりとり。	2	3
	キ	英語を使うモデルになるクラスルームイングリッシュを用いた指示や発問。	1	2
	ク	児童に気付いてほしい姿を褒めたり、振り返りを意図的に指名したりする。	3	4

ウ　授業をよりよくする態度について

M教諭は、授業構想(ウ)と授業展開(キ)を自身の課題に設定し、解決してきた。また、そのために、外国語教育について自主的に学んだり、英語を身に付けたりしていた。これは、課題解決に向けて計画、実践、振り返りを繰り返した姿である。このような姿が見られたのは、コーチングシートで「承認」「称賛」した上で、「提案」をしたことが有効であったからだと考える。



資料 24　コーチングシートを貼ったM教諭の週案

このことは、M教諭は週案にコーチングシートを貼り、常に意識をしながら授業を計画していたことからも言える(資料 24)。また、M教諭は外国語活動通信の実践紹介コーナーを読んで「私もここに載るようにがんばりたい。」と言っていた。外国語活動の実践を共有する通信は、ステージⅡの学級担任の意欲を刺激し、コーチングシートを基に自身の課題を見いだし解決しようとする意欲をもたせる上で有効であったと考える。

（３）ステージⅢ：Ｓ講師のコーチングの実際

【実践前はこうだった】

○　英語への興味関心が高く、外国語の授業をすることは好き。

○　英語を教えるという意識が強い。

→

【実践後にこうなった！】

○　リラックスして授業ができた。

○　単元の先を見通して教材研究や指導計画の作成ができるようになった。

Ｃ小学校の４年生担任であるＳ講師は、外国語に関する研修経験はあまりないが、高学年

で外国語活動を実施していたときの授業経験はある。また、ALT と積極的に話をしようとする姿が見られ、英語への関心は高い。このことから、Ｓ講師はキャリアステージⅢであると判断した。そこで、実践を通して目指すＳ講師の姿を以下のように設定した。

○　学習指導要領の目標と内容を踏まえて、単元を通して、必要な言語材料を使った活動を工夫した指導計画を立てることができる。 ○　外国語活動の基礎的・基本的な指導技術を三つ以上身に付け、授業を展開できる。 ○　授業における課題を設定し、計画、実践、振り返りを繰り返して解決しようとする。

①　２学期の実践　第４学年　Let’ｓ Try２　Unit５から Unit７

	Unit５（４時間）	Unit６（４時間）	Unit７（４時間）
モデル提示（構想①）		○	
通信の作成（構想②）	○単元の学習過程の考え方	○ねらいに応じたゲーム、活動例	○単元構成の工夫
教材、教具（構想③）	○		○

ア　Unit５（Ｓ講師の実践）

この単元では、４時間の単元を通した授業を観察した。下の表９は、Ｓ講師が構想、実施した授業のねらいと学習活動を整理したものである。尚、ここに示すねらいは「新学習指導要領に対応した小学校外国語教育新教材」（文部科学省）から引用したものである。

表９　Ｓ講師が計画した Unit５の学習過程

時	ねらい	主な学習活動
第１時	文房具などの学校で使うものの言い方に慣れ親しむ。	①４年生のこれまでの学習でできるようになった表現を確かめる。 ②Let’ｓ Watch and Thinkで言っていることの意味を考える。 ③ペアやチャンツに合わせて文房具の言い方を練習する。
第２時	文房具などの学校で使う持ち物を尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。	①Let’ｓ Listenで、登場人物の持ち物について、文房具の種類や数に気を付けて聞く。 ②Ｉ spy ゲームで、文房具の言い方を練習する。
第３時	文房具などの学校で使う物について、尋ねたり答えたりして伝え合う。	①Let’ｓ Watch and Thinkで、世界の子どもの持ち物を聞き取る。 ②持ち物を尋ねたり答えたりする表現を使って、試しに作った文房具セットを伝え合う。
第４時	相手に配慮しながら、文房具など学校で使う物について伝え合おうとする。	①誰が使いそうな文房具か予想しながら振り返る。 ②どんな職業の人に送る文房具かを考えて、文房具セットを作る。 ③作った文房具を紹介し合う。

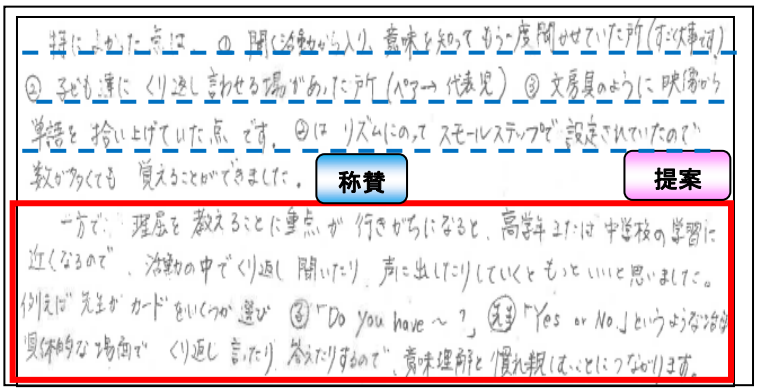
第１時、第２時のねらいは、文房具などの言い方、持ち物の尋ね方に慣れ親しむことである。外国語活動では「英語を使った言語活動をすることで、表現に慣れ親しませること」が大切である。しかし、Ｓ講師は、表９下線部のように、動画の中で伝えていることの意味を考えたり、文房具の言い方を繰り返し練習する活動を設定していた。これは、英語を教えないといけないという思いがあるからだと考える。また、第２時でも、必要な持ち物を尋ねる表現を聞いたり話したりする活動は設定されていなかった。

表 10　事前の自己評価と第２時後の専科の評価

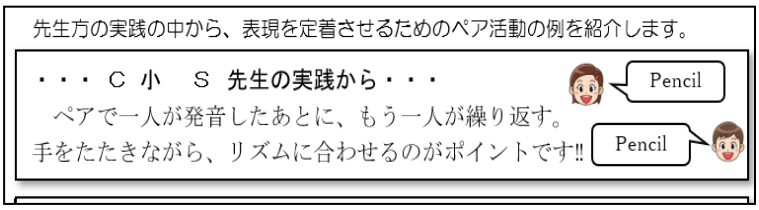
評価の観点			専	自
授業構想力	ア	単元の目標を達成するために、各時間のねらいを具体化する。	1	2
	イ	めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	2	2
	ウ	メインアクビティの場面を考えることができる。	1	3
授業展開力	オ	児童に活動の目的や場面を意識させる導入の工夫。	2	3
	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションややりとり。	2	2
	キ	英語を使うモデルになるクラスルームイングリッシュを用いた指示や発問。	3	3
	ク	児童に気付いてほしい姿を褒めたり、振り返りを意図的に指名したりする。	3	3

実践前の自己評価と第２時後の専科による評価を比較すると、授業構想(**ア**)「各時間のねらいの具体化」と(**ウ**)「メインアクティビティの場面」にズレが見られた(前頁表 10 太枠)。そこで、コーチングシートでは、意欲が低下しないように多めの「称賛」と学習指導要領の目標からの根拠を明確に示した「提案」を行った(資料 25)。また、実践意欲を高めることができるように、外国語活動通信で、Ｓ講師のペア活動の実践を紹介した(資料 26)。

その後、Ｓ講師は、自身の課題を「単元のねらいの達成に向けた活動構成」(**ア**)(**ウ**)と設定した。そして、「もう一度活動の仕組み方を学びたいので、モデルを見たい。」と自らモデル提示の視点を見いだしていた。これは、コーチングシートと外国語活動通信で「称賛」しながら、理論に基づく「提案」をしたことが、納得と実践意欲の向上につながったからだと考える。



資料 25　根拠を明確に「提案」をしたコーチングシート



資料 26　Ｓ講師の実践を紹介した外国語活動通信(実践コーナー)

イ　Unit６(モデルの提示)

下の表 11 は単元の指導計画である。特に授業構想(**ア**)(**ウ**)の視点を大切にモデル提示した。

表 11　モデルとして提示した Unit6 の学習過程

時	ねらい	主な学習活動
第１時	身の回りには活字体の文字で表されているものがたくさんあることに気付き、活字体の小文字とその読み方に慣れ親しむ。	①身の回りや教科書から小文字を探し、活字体の小文字について知る。 ②ポインティングゲームで、音を聞いて小文字を選ぶ。 ③カードマッチングで、Do you have～？を使って仲間探しをする。(aからｎ)
第２時	活字体と小文字とその読み方に慣れ親しむ。	①チャンツに合わせて、小文字の読み方を練習する。 ②カードマッチングで、I have～. を使って仲間探しをする。(続き) ③Let’s Whatch and Thinkで看板を探し小文字の集まりを読む。
第３時	身の回りにあるアルファベットの文字について尋ねたり答えたりする。	①教師のWho am Iクイズに答え、めあてをつかむ。 ②Who am Iクイズでアルファベットの数と種類を尋ねたり、答えたりする。(１回目　I have～. で)(２回目　Do you have～？で)
第４時	相手に配慮しながら、アルファベットの文字について伝え合おうとする。	①前回の学習とアルファベットを振り返る。 ②教師の好きな物当てクイズに答え、活動内容を知る。(モデル) ③友達との好きな物当てクイズで、アルファベットの文字を伝え合う。

「身の回りの活字体とその読み方に慣れ親しむ」という単元のねらいの達成に向けて、最終の言語活動をアルファベットを用いて好きな色やものを伝え合う活動にした。そして、最終の言語活動で使う「Do you have～？」「I　have ～.」「How many letters?」を繰り返し使いながら小文字に慣れ親しむ活動を段階的に設定した(表 11 下線部)。

第３時のモデル授業前後の対話では、課題である「単元のねらいの達成に向けた活動構成」の視点から、授業構想の考え方を伝えた(次頁資料 27 波線部)。Ｓ講師は、「スモールステッ

プで活動を設定していくのですね。」と納得していた。さらに、単元構成の工夫について整理した外国語活動通信を作成し、提供した(資料 28)。

振り返り

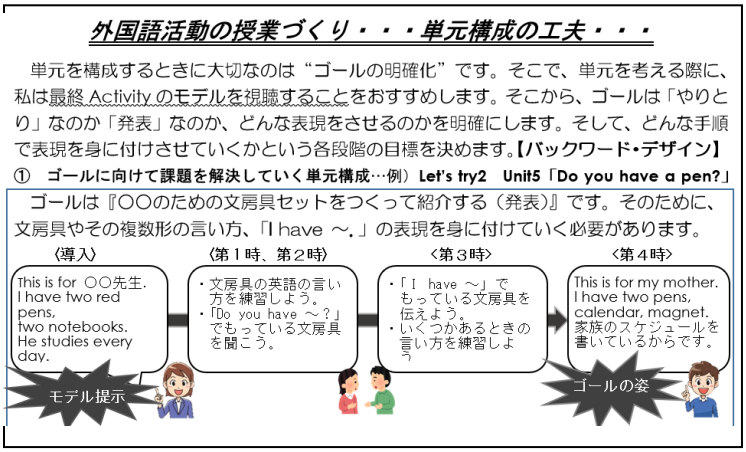
専：子ども達の活動の様子はどうでしたか。

Ｓ：数を尋ねたり、持ち物を尋ねたりする表現が使えました。

専：使わせたい表現をすぐに理解することはできません。最後のゴールに向けて単元の始めから繰り返し聞かせたり使わせたりことが大切です。

Ｓ：スモールステップで活動を設定するのですね。

資料 27　第３時の振り返り



資料 28　単元構成についてまとめた外国語活動通信(一部)

ウ　Unit７(Ｓ講師の実践)

課題　単元のねらいの達成のために、活動の構成を工夫すること(授業構想ア、ウ)

単元のねらいは「食材について欲しいものを尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ」である。その達成のために、Ｓ講師が立てた単元の指導計画を表 12 に示す。

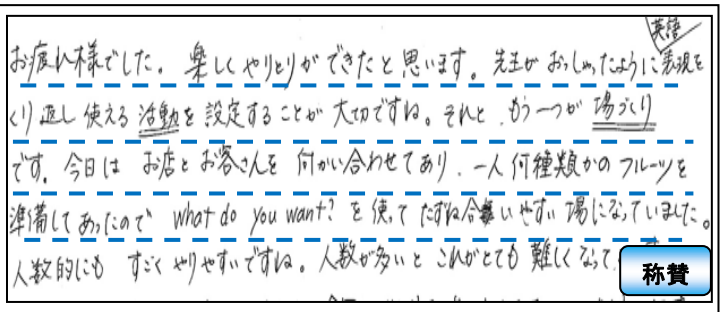
表 12　Ｓ講師が計画した Unit７の学習過程

時	ねらい	主な学習活動
第１時	食材の言い方や、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。	①Let's Watch and Thinkで外国の市場の違いに気付く。 ②Let's Watch and Thinkで、野菜や果物の表現を知り、オリジナルピザを作るというゴールを設定する。 ③おはじきゲームで食材の言い方に慣れ親しむ。
第２時	欲しいものを尋ねたり要求したりする表現に慣れ親しむ。	①食材の言い方をペアで振り返る。 ②チャンツから、欲しいものを尋ねたり要求したりする表現を知る。 ③教師のお店に欲しいものを買いに行く「買い物ゲーム」をする。
第３時	※都合により参観できていないため、記録なし。	
第４時	フルールパフェについて紹介したり、欲しいものを尋ねたり要求したりして伝え合う。	①Let's Listenで、果物の数、パフェの種類を聞き取る。 ②お店とお客に分かれて、買い物をして、友達の好きなパフェを作る。(What do you want？　I want～. を使って)
第５時	食材について欲しい物を尋ねたり答えたりして伝え合う。	①お店とお客に分かれて、買い物をして、友達の好きなオリジナルピザを作る。(What do you want？　I want～. を使って) ②作ったオリジナルピザを紹介し合う。

Ｓ講師は、表 12 下線部から分かるように食材の言い方、「What do you want？」「I want ～.」を使って尋ね合う活動を段階的に仕組むことができていた。特に、第４時は、「友達の好きなパフェを作るために、果物を買いに行く」という具体的な場面を設定していた。そして、児童をお店役、お客役に分けて向かい合わせることで、相手を見ながらやりとりができる場づくりを工夫していた。児童は相手を変えながら「What do you want?」「I want ～.」を繰り返し使い、表現に慣れ親しむことができた。このような単元の授業構成ができたのは、コーチングシートを基にＳ講師が自身の課題を自覚した後に、課題に沿ったモデルを提示したことが有効であったからだと考える。コーチングシートでも、達成感を感じることができるようにＳ講師の課題の視点からの「称賛」を行った(次頁資料 29)。

評価の観点			専
授業構想力	ア	単元の目標を達成するために、各時間のねらいを具体化する。	3
	イ	めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	3
	ウ	メインアクビティの場面を考えることができる。	3
授業展開力	オ	児童に活動の目的や場面を意識させる導入の工夫。	4
	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションややりとり。	3

【専科による評価（第４時）】



【活動の設定を「称賛」をしたコーチングシート】

資料 29　Unit7 第４時の授業観察の評価を基に「称賛」したコーチングシート

② 考察

表 13 は、専科の支援と担任の反応、専科の評価、コーチングシートの内容を整理したものである。尚、コーチングシートの内容は、単元を通して行った内容である。また、表 14 は実践後の専科による評価とＳ講師の自己評価を比較したものである。

表 13　Unit５から Unit７におけるＨ教諭への支援と授業の評価

	Unit５（４時間）	Unit６（４時間）	Unit７（４時間）
モデル提示（構想①）		○	
通信の作成（構想②）	○単元の学習過程について	○ねらいに応じたゲーム、活動例	○単元構成の工夫
教材、教具（構想③）	○		○
担任の反応	・全部英語で話そうとしたが活動内容が伝わらなかった。 ・外国語活動では、どんな単元構成をしたらよいか学びたい。	・活動の中で表現を使わせていく授業イメージができた。	・児童が表現に慣れ親しむ姿が見られた。 ・単元のゴールに向けた単元の構成の仕方が分かってきた。
専科の評価	○一単位時間の授業を工夫してできる。 ○デジタル教材を活用できる。 △活動を通して英語に慣れ親しむ単元指導計画		○単元のゴールを見通して、少しずつ表現に慣れ親しむ活動が仕組めた。 ○提供した教材を基に、活動に合わせた工夫ができていた。
コーチングシートの内容	称賛 ・指導技術について（ペア活動、英語） 提案 ・単元の活動構成 ↓ 承認 ・単元の活動構成を改善しようとする姿勢		承認 ・授業改善の姿勢 称賛 ・具体的なゴール設定 称賛 ・単元構成 ・活動の場づくり ↓ 提案 ・活動の変化（表現・対象）

ア　授業構想力について

専科の評価（表 13 の太枠）を見ると、Ｓ講師の課題であった授業構想（ア）「各時間のねらいの具体化」（ウ）「メインアクティビティの場面」が改善されていることが分かる。これは、学習指導要領の目標や内容を踏まえた授業計画ができるようになった姿であると捉える。また、表 14 の太枠を見ると、実践前にズレが見られた授業構想（ア）（ウ）の評価が一致していることが分かる。

表 14　実践後の専科による評価と自己評価

評価の観点			専	自
授業構想力	ア	単元の目標を達成するために、各時間のねらいを具体化する。	3	3
	イ	めあてづくり→メインアクティビティ→振り返りの学習過程を考える。	3	3
	ウ	メインアクビティの場面を考えることができる。	3	3
授業展開力	オ	児童に活動の目的や場面を意識させる導入の工夫。	4	4
	カ	活動を短時間で理解させるデモンストレーションややりとり。	3	2
	キ	英語を使うモデルになるクラスルームイングリッシュを用いた指示や発問。	3	3
	ク	児童に気付いてほしい姿を褒めたり、振り返りを意図的に指名したりする。	3	2

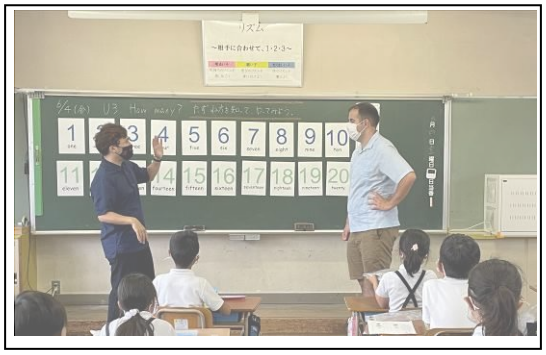
このような姿が見られたのは、コーチングシートで外国語活動の目標を根拠に「提案」したことが有効に働いたからだと考える。その際、Ｓ講師が課題を見いだした時点でモデルを提示したことが、課題解決の見通しをもつことにつながったと考える。また、Ｓ講師は外国語活動通信をいつも手元において授業を考えていた。このことから、授業づくりのポイントを整理した外国語活動通信が「提案」の内容理解の手助けになったのだと考える。

イ　授業展開力について

前頁表 14 の点線枠を見ると、授業展開力(**オ**)「導入の工夫」(**カ**)「デモンストレーション」の項目が高くなっている。また、全体的にバランスが取れてきていることが分かる。これは、Ｓ講師が外国語活動の指導技術を三つ以上身に付けた姿だと捉える。今回の実践では、授業展開力に関する課題を設定していない。しかし、ねらいを達成するための活動を行う上で、基礎的な技術は欠かせないものであり、授業構想の課題解決と関連して向上させることができたのだと考える。その際、モデルの提示が有効であったと考える。

ウ　授業をよりよくする態度について

Ｓ講師は、授業構想(**ア**)(**ウ**)を自身の課題に設定し、解決してきた。これは、課題解決に向けて計画、実践、振り返りをしている姿である。また、別の単元では自身の課題を授業構想(**エ**)「ALT との効果的な連携」を設定し、課題解決を繰り返す姿が見られた(資料 30)。このような姿が見られたのは、コーチングシートで「提案」したことに関する「承認」「称賛」を繰り返したことが有効だったからだと考える。その際、外国語活動通信で実践のよさを紹介したことで、「称賛」の内容を強化し、課題解決への意欲をもたせることにつながったと考える。

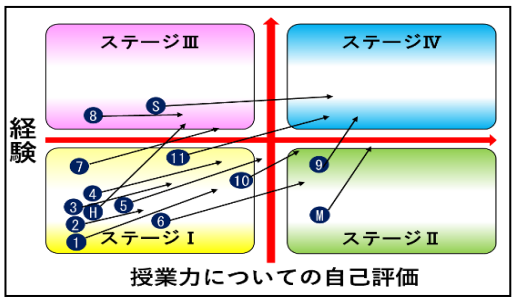


資料 30　新たな課題解決に取り組む姿

7　研究の成果と課題

（1）研究の成果

①　キャリアステージに応じたコーチングシートの活用の有効性について



資料 31　実践前後のステージの変容

- コーチングシートでいつも褒めてもらっていたのが支えになりました。【ステージⅠ】
- コーチングシートを確認しながら、授業を考えることができました。【ステージⅡ】
- 同学年の先生と書いてある内容を確かめながら、一緒に授業を考えることができました。【ステージⅡ】
- 具体的な改善の方法が書いてあり、参考になりました。【ステージⅢ】

資料 32　コーチングシートに対する学級担任の声

授業観察の評価及び実践前後の自己評価の変容を総合的に見て表したものが資料 31 である。一年間の実践のため、キャリアステージを超える伸びは少ないが、全体的にステージⅣに近付いていると言える。また、資料 32 の学級担任の反応から、コーチングシートを対話の中心に据えた指導、助言は、各キャリアステージの担任の授業力を高める上で有効であった

と考えられる。その際、「提案」したことへの「承認」「称賛」、更なる課題に気付くための「提案」という手順で行うことが効果的であることが分かった。そして、「提案」については、ステージⅠは取り組みやすい項目から始め、ステージⅢに進むにつれ、根拠を明確にして行うことが、各自の課題を見いだし、計画、実践、振り返りを促す上で有効であった。

② 具体的支援の有効性について　　※　各実践の「実践と考察」を参照

ア　授業力向上の視点をもたせる授業モデルについて

授業モデルの提示に関しては、計画、実践、振り返りという手順で行った。また、キャリアステージや課題に応じて提示パターンを選択できるようにした。モデルを提示したことによって、学級担任が、「提案」を基に見いだした課題の解決方法を見通し、授業を計画立案したり、指導技術を身に付けたりする姿が見られた。

以上のことから、授業力向上の視点をもたせる授業モデルを提示することは、「キャリアステージに応じたコーチングシートの活用」の実効性をもたせる上で有効だと考える。

イ　「承認」「称賛」「提案」を強化する外国語活動通信の作成について

外国語活動通信は、「外国語活動の授業づくり」「実践紹介」の二つの内容で構成した。「外国語活動の授業づくり」は、コーチングシートの「提案」を基に授業を計画立案する際に活用する姿が見られた。また、「実践紹介」によって、「承認」や「称賛」の内容を共有することができ、紹介された担任だけでなく、他の担任の実践意欲を高めることにつながった。

以上のことから、「承認」「称賛」「提案」を強化する外国語活動通信を作成したことは、「キャリアステージに応じたコーチングシートの活用」の実効性をもたせる上で有効だと考える。

ウ　授業づくりの土台となる教材、教具の提供について

教材、教具の提供に関しては、外国語活動教材「Let’s Try」を使って、同じ土台で授業づくりができるようにした。作成した教材、教具を用いて対話をすることで、学級担任はねらいを明確にして授業構想をする姿が見られた。また、共通の教材、教具を土台にしたことで、他の担任の実践を基に助言をすることができ、互いの実践を共有することができた。

以上のことから、授業づくりの土台となる教材を提供したことは、キャリアステージに応じた適切なコーチングを行う上で有効であった。

（２）今後の課題

○　今後キャリアステージⅠの教員が増えることを踏まえ、より外国語活動の授業への不安を抱く学級担任に対しては、活動レベルでのモデル提示パターンを選択できるようにする。

○　専科の「提案」に基づく課題設定からより主体的な課題設定へと発展するように、授業評価シートを作成し、活用できるようにする。

＜参考文献＞

・文部科学省「小学校外国語活動・外国語　研修ガイドブック」

・菅　正隆（2019）「小学校外国語活動・外国語授業づくりガイドブック」明治図書出版

・菅　正隆（2018）「小学校　外国語活動“Let’s Try!　１＆２”の授業＆評価プラン」明治図書出版